



ひろしまええとこ通信



正しく恐れて、楽しくつながる！With コロナ

地域みんなであつなかりを絶やさないために

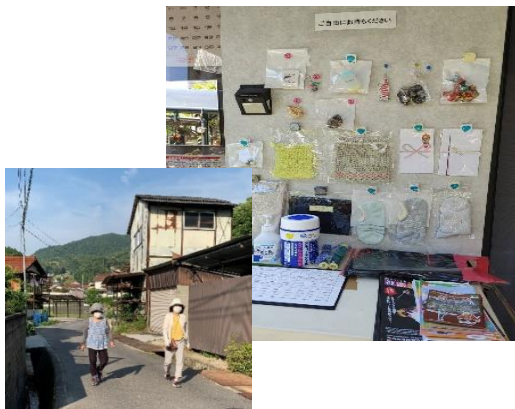
コロナ禍でもつながりを絶やさないために、感染対策を工夫して継続された活動や開催できなくてもつながりを保つために工夫された活動がたくさんあります。現在、広島市内の多様な団体にご協力をいただき、下記のようなつながるための活動を集めた「ひろしまええとこつながり報告集」を作成しています。完成まで今しばらくお待ちください！！



オンラインで自宅と会場をつなげて、みんなでストレッチ！！
(広島県生活協同組合連合会)



地域と企業が連携し、移動式の認知症カフェを開始！！
(株明販広島東おかもと：南区)



ウォーキングの中継地点で断捨離持ち寄りバザー！！
(広島原町内会域：安芸区)



自粛期間も思いつながる！！脳トレ&体操を配布！！
(井口5丁目水鳥会：西区)

～来たる冬に備えて再確認！！～



来たる冬に備えて、自分たちの活動の目的や感染対策、開催自粛となった場合にできること等について、改めて参加者みんなで共有しあい、コロナに負けないつながりづくりを目指しましょう！！

【参考】通いの場を開催・再開するときの留意事項

- 地域における流行状況を確認し、開催の可否や実施方法について検討する。
- 参加者の体温や体調確認を行い、記録する。
- 参加者に手洗い、マスクの着用を呼びかける。
- 3密を避け、人と人との距離を確保する。
- 参加しなくなった方の把握や参加の呼びかけを行う。



参考情報たくさん！
「集まろう！通いの場」
ウェブサイト QR コード

東区 ウォーキング活動の広がりに

温品学区社協が実施する「温品サロンほっと ウォーク会」の活動が大人気であると話題になり、東区では「ウォーク会に続け!」と、いろいろな地域でウォーキング活動が立ち上がっています!

わせたじんじ 早稲田神社まで歩こう! (牛田学区・早稲田学区)

コロナ禍で普段どおりの活動ができず、運動不足や引きこもりがちになってしまうなど、様々な課題が地域の中で生まれていました。そのような状況の中、「ウォーク会のような活動を牛田・早稲田圏域でも始めませんか」という地域包括支援センターからの提案がきっかけとなり、ウォーキング活動を立ち上げることになりました。地域の皆さんの「何かしたい!」という思いが強かったため、話はとんとん拍子で進み、牛田体協と早稲田体協の共催ということで「早稲田神社まで歩こう!」の活動が始まりました。(毎週金曜日10時~11時開催)

活動日になると参加者は、それぞれが自宅から早稲田神社を目指して歩きます。ゴミ拾いをしながら歩いて来た人にはいきいきポイントがさらにプラスされます。参加者は増え続けており、今では参加者100名以上!会場では障害福祉事業所の自主製品販売や、フレイル予防などの様々な情報発信や交流が行われています。ボランティアスタッフの方々の表情も輝いており、自らも楽しんで参加されているのがわかります。

早稲田体協の杉本氏は「コロナ禍で活動ができない中、何かしたいとウズウズした気持ちをみんなが抱えていた。タイミングが良かった。」と話されます。日頃からの連携や信頼関係が十分にあったからこそ、すぐに皆さんの心が一つになり、タイミングを逃さず実現することができたのだと思います。

ぜんしょうじ 禅昌寺まであるこうや♪ (戸塚学区)

「禅昌寺の周辺を散歩している人が多いな」と、お寺のすぐ下に家がある町内会長は感じていました。また、禅昌寺も宗派など気にせず誰にでも来てもらえる場にしたいと常日頃思われており、お寺で座禅を定期的に開催したり、ホールでコンサートなどのイベントも行っていました。

そこで、禅昌寺をゴールとしたウォーキングサロンができないかというアイデアが生まれ、町内の住民の方と地域包括支援センター職員と一緒に禅昌寺へ相談に行ったところ、快諾していただき10月からウォーキングサロンが始まりました。

毎週火曜日10時~11時までにゴールの禅昌寺に来た人が対象で、お住まいは問いません。10月19日から始まり、まだ広報があまりできていませんが、1回目は12名、2回目は23名と参加者も確実に

↑到着したら、まずは参拝! 増えています。

参加者は、「コロナであまり外出できず、家でテレビばかり見てしまうので、運動する良いきっかけとなった。ウォーキングができて嬉しい。」と話されていました。お寺の方の積極的な協力もあり、地域住民との交流の場にもなっています。

東区ではこのようにウォーキングが増えており、ただウォーキングするだけでなく、人との交流の場になるなど活動の幅も広がっています。



↑いきいきポイントの受付(左)と自主製品販売(右)

↓たくさんゴミを拾って地域貢献!



↑雰囲気の良い境内で座って休憩できます



↑いきいきポイント受付の様子

西区 オンラインもスマホもやってみよう！ 庚午地区社会福祉協議会 オンライン体験会&スマホ講座

オンライン体験会をやってみよう！



画面上での再会をよろこびあうお世話人の皆さん



令和3年6月緊急事態宣言のなか、庚午地区の高齢者交流サロンやいきいき百歳体操実施団体のお世話人の方々がzoomでつながり、オンライン体験会を行いました。

これは、広島市から貸与されたタブレット端末を活用し、庚午地区社協の桑野地域福祉推進委員、庚午包括と共に、コロナ禍で高齢者の方々が集まる機会が制限され、なにかつながる手段はないか、と話し合いを行うことから企画されたものです。

何度も打ち合わせやzoom練習を重ね、いざ本番！続々とzoomでつながってこられるお世話人さん達。

「ひさしぶりだねー。」「どうしていた？」そんな声が飛び交いました。〇×クイズ、zoomしてみよう画像クイズを行い、その後皆さんフリートークを楽しまれました。「7月からサロン再開予定だけど、不安でいっぱいなのよ。」「再開したら人数を半分にしないとイケないかな。」といった胸中を明かされ、「一人じゃない、つながっている」ことを再確認していただけたように感じます。

スマホ講座もやってみよう！



熱心に教えてくださるドコモ講師さんたち



一生懸命聞かれる参加者さんたち

6月のオンライン体験会に続いて、令和3年10月には、コロナ禍でもつながりを絶やさないようスマホアプリを学ぶため、ドコモ五日市城山店の方をお招きし、「スマホ講座」を開催しました。昨年度も開催し、大好評であったこの講座。この度はさらに回数を増やし、4回行いました。延べ参加人数は29人で、講座に関心を持たれていた井口社協の方の参加もありました。スマホアプリの入れ方、「アプリを入れてみよう!」では災害アプリを実際に入れる方法や、テレビ通話のできるアプリについて使い方を学び、皆さんで楽しい時間を過ごしました。参加者からは、「実際に教えてもらえると簡単だね。」「これからもやってみようと思う。」と前向きな感想をいただいたことから、ぜひ他の地区でも実施していきたいと思えます。

コロナ禍ではICT(通信技術を使って、人とインターネット、もしくは人と人がつながること)をうまく活用することで活動内容の拡充や情報の共有等に役立てることがができます。しかしその一方で、機能の多さ故に便利な機能を使いこなせていない現状もあります。通信技術は日進月歩。新しいことにどんどんチャレンジされる地域の方をこれからも応援します。

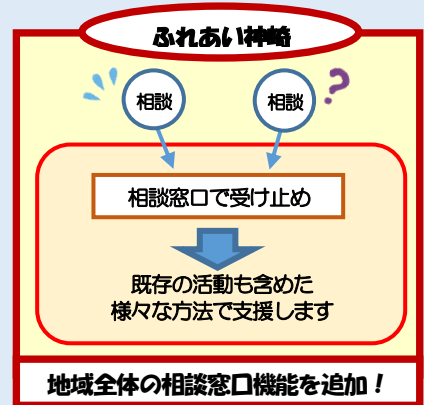
中区 コロナ禍に負けない助け合い

～神崎学区社会福祉協議会～

困りごと相談所「ふれあい神崎」始動！

神崎学区社会福祉協議会では、地域高齢者支え合い事業「神崎安心ネット」による見守りや、住民主体型生活支援訪問サービス（以下、生活支援サービス）「ふれあい神崎」による生活支援などに取り組んできましたが、これらの取組だけでは、支援の対象者が高齢者に限られていました。

そこで今年度より「ふれあい神崎」に、地域の困りごと相談の窓口としての機能を追加！この相談窓口では、対象者の限定なく地域のみなさんからの相談ごとを受け止め、既存の取組も活用しながら、困りごとの解決を図ります。



地域住民の
安心のために！

コロナ禍でも相談窓口を継続

「ふれあい神崎」は、コロナ禍でも感染対策を講じながら休止することなく相談窓口を開けてきました。

夏が終わる頃、以前より生活支援サービスを利用中のひとり暮らしの高齢者が「ふれあい神崎」に訪れ、お話をする中で、まだワクチンが接種できていないことがわかりました。ワクチン接種が進む一方で「重度の副反応の可能性がある」「病院も込み合っていて接種予約はなかなかできない」などの様々な情報やウワサもあったため、相談相手なくひとり判断・行動するには不安も伴う時期でした。



事務所は神崎会館(集会所)の中



今年度より事務所の開設日数も週1回から週3回へ

詳細を聞くと「ふれあい神崎」のスタッフもよく知る病院がかかりつけ医だったため、本人ご了解のもとですぐに病院へ電話相談。その場で接種予約が完了したことで、相談者は安堵の顔で帰られました。後日、無事2回の接種を終えたご連絡をいただき、スタッフも一安心！

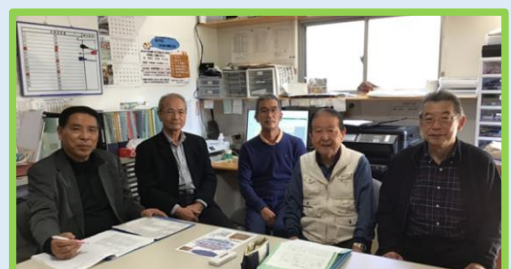
また別の日には、中区障害者基幹相談支援センターより、身体障害者（車いす）のご自宅玄関の段差解消（土台の製作）の依頼がありました。依頼を受けたスタッフは、すぐに調整に入り、製作に取りかかりました。

コロナ禍でも、私たちの日々の生活は止まることなく動いています。その中では、コロナ禍に起因する困りごとや、コロナ収束まで待つことのできない喫緊の生活課題も生じます。「ふれあい神崎」の相談窓口を継続して開くことが、地域のみなさんが生活する上での安心につながれば何よりです。

今後に向けて

「ふれあい神崎」を立ち上げて2年、地域全体の相談窓口機能を追加して半年です。今後は地域住民への周知によって、より、地域住民から認知され必要とされる組織に発展させていく必要があると考えています。

そのために、これまでの広報誌によるPRに加え、現在、地域資源マップによる情報提供や、訪問しやすい環境づくりとして立て看板の作成（小学校児童にデザイン募集中！）などを企画中です。



「ふれあい神崎」の常駐スタッフのみなさん

「地域みんなの『よいところ』となるように…」これが「ふれあい神崎」の思いです！